

# 紀尾井 だより

7/8

July, August 2019  
Vol.136



紀尾井ホール



艶と温かみを兼ね備えた美声で錚々たる指揮者たちを魅了し続けているソプラノ、ランツハマール。度重なる要請に応え、2006年以來ようやく再来日します。得意のシューマンを中心とする知的で多彩なプログラムは、彼女の魅力をさまざまな角度から堪能いただく最高の組み合わせ。ピアノは名手フーバー。今年最大の歌曲リサイタルといって過言ではありません。

デビューして瞬く間にスターダムを駆け上がったため、日本のファンの前に姿を現すのに時間がかかってしまった海外アーティストというのは少なくない。特に制作に時間がかかるオペラに拘束されることが多い歌手は、器楽奏者に比べ、その割合が高くなるように思う。ナタリー・デセイ(ドゥセ)などその典型と言えるだろう。

逆に知名度が高まる前に来日を果たしたがゆえに、一部の聴衆の記憶にのみ残り、後に魅力を知った多くのファンから次の来日を渴望されるも、すでに多忙をきわめまならない場合も多々ある。来たる11月26日、日本で初のリサイタルを開くクリスティーナ・ランツハマールはこの両方が当てはまるひとりだ。

2004年にバッハ・コンクールのファイナリストとなり注目された彼女は、翌2005年にベルリン州立歌劇場でのツェンダーの歌劇《ジョセフ酋長》世界初演に参加。2006年にはミュンヘン・バイエルン放送の音楽コンクール「La Voce」で1位なしの第2位を受賞し、同年夏のルツェルン音楽祭ではシュトゥットガルト新ヴォーカルゾリステンのメンバーとして、シウムツキの新作初演を行うなど活躍を上げた。初来日はちょうどこの時期にあたり、2005年にシュライアー指揮オーケストラ・アンサンブル金沢《マタイ受難曲》で日本にデビュー、翌2006年にはバッハ・コレギウム・ジャパンにも客演している。

# クリスティーナ・ランツハマール ソプラノ・リサイタル

11/26

19:00開演

友の会優先発売 6/26 ☑ 一般発売 6/29 ☑

その後、ランやシュトゥットガルトの歌劇場で充実の日々を重ね、2007年バイエルン放送響にデビュー。そして、2011年ザルツブルク・モーツァルト週間でのアーノンクールとの共演を皮切りに、ティールマン指揮ウィーン・フィル《影のない女》、ノット&バンベルク響のマーラーや《ゴジ・ファン・トゥッテ》、ラトル指揮ベルリン・フィル《カルメン》、ヘレヴェーへのシューマン《楽園とペリ》およびハーディングとの同《ファウストの情景》、そのほかにもギルバート指揮ゲヴァントハウス管およびニューヨーク・フィル、ユロフスキ指揮ベルリン放送響、イヴァン・フィッシャー&ブダペスト祝祭管など続々と話題の公演で成功を重ねてきた。

日本にはその後、2013年にパヴォ・ヤルヴィとドイツ・カンマーフィルハーモニー・ブレー

メンとの《フィデリオ》で再来日するはずだったがキャンセル、次いで2017年にプロムシユテット指揮N響公演もキャンセルとなってしまい、ファンをよきもきさせたが、遂にこの度、13年ぶりに再来日を実現する運びとなった。今回のプログラムは、満を持しただけあって彼女の多才さを余すところなく発揮する内容だ。前半はパーセルにコープランドと英米語作品で構成。後者の歌曲集はホイットマンと並ぶ米国最大の詩人エミリー・ディキンソンのテクストに基づく。本年2月の「紀尾井明日への扉」で三宅理恵がこの詩人を探り上げていたのをご記憶の方も多いだろう。

後半はドイツのバロックとロマン派から。まずはヘンデルの才能を見出したといわれるヨハン・フィリップ・クリューガーの小品を4つ。あまり耳なじみのない作曲家かもしれないが、しつとりと胸に染み入る《孤独に寄せて》など、ぜひお聴きいただきたい名曲ばかりを揃えている。最後のシューマンに至っては彼女が最も好んでいる作曲家、といえは十分だろう。

どれも声と言葉の美しさが際立つ名曲であり、ランツハマールの温かく柔らかな声のキャラクターを存分に味わっていただけること請け合いです。ピアノにはゲルハーヘル信頼を一手に集めるゲロルト・フーバーが、この一晚のためだけに来日する。

©Marco Borggreve



紀尾井  
たつぷり名曲1  
義太夫

9/26<sup>木</sup>

18:30開演

友の会優先発売 7/2<sup>〃</sup> 一般発売 7/4<sup>〃</sup>

# 「谷嫩軍記」 熊谷陣屋の段

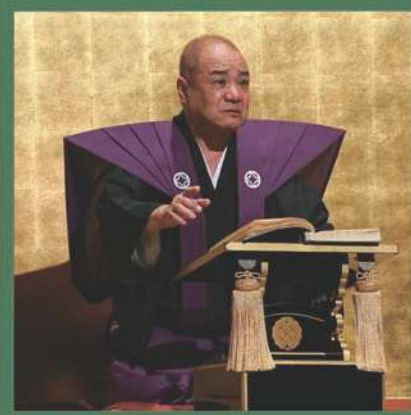
いちのたにふたばぐんき  
くまがいじんや  
名曲はなぜ名曲なのか？  
今、邦楽で演奏されている曲の多くが江戸時代  
に作られたものです。  
江戸の初めから数えて今に至る400年  
もの間、消えることなく演奏され続けてき  
た理由とは？  
不朽の名曲、大曲を一曲丸々たつぷりお聴  
きいただく新シリーズ！

撮影：森口ミツル  
提供：国立文楽劇場



鶴澤清介

豊竹呂太夫



## 並木宗輔の絶筆

宝暦元年(1751)12月大坂豊竹座初演、268年前の作品「二谷嫩軍記」は、「平家物語」と「源平盛衰記」を題材とした五段構成の時代物です。しかし、並木宗輔が三段目まで書いたところで急逝したため、後に5名の作者たちによって完成されました。並木宗輔は一時期並木千柳と称し、三大名作「菅原伝授手習鑑」「義経千本桜」「仮名手本忠臣蔵」の作者として名高い人物です。つまり彼の最後の作品が三段目の切「熊谷陣屋の段」なのです。

文楽や歌舞伎では一段を「口」「中」「切(奥)」などに区切ってそれぞれ別の奏者が語ることがあります。切場も長時間なので、最近では2人で前後分担することが多く、一人で語り通す本来の形で上演されることが少なくなっています。

### あらすじ

時は源平のころ、主人公は源義経を主君に持つ熊谷次郎直実という男です。義経から二枝を切らば一指を切るべしとの制札を渡され、若木の桜を救えとの指令を受けます。二枝一指一子に通じることから、後白河院の庶子である平敦盛を救えとの源義経の密命を果たすため、敦盛の身代わりとして息子の小次郎を犠牲にすることとなる直実。戦いと武士道のむなしさ、無常を痛感する直実の姿、そして子を思うそれぞれの母の苦悩が聴きどころです。

## 呂太夫×清介で挑む

何度も演奏されるということは、いつの時代の観客にも感動を与え続け、上演を望まれるということもありますが、演奏する方も好んで舞台にかけてきたということでもあります。今回、語る呂太夫の意気込みもまた、並々ならぬものがあります。素浄瑠璃公演の醍醐味は、一段丸ごと語るところにもありますが、80分もの大曲には人並外れた体力と気力が要求されるため、なかなか上演される機会はありません。



並木千柳「忠臣蔵岡目評番」早稲田大学図書館蔵

あわせて聴きたい

### お得なセット券のご案内

紀尾井たつぷり名曲2長唄  
「勧進帳」  
杵屋勝四郎×杵屋勝国  
12月13日(金)16時開演  
セット券 7,000円

友の会優先発売 6/25<sup>〃</sup>  
一般発売 6/27<sup>〃</sup>

第2回は長唄の名曲  
「勧進帳」を杵屋勝四郎と  
杵屋勝国の演奏で  
たつぷりとお届けします。

9月の公演に向け、夏の間は体力づくりをして臨みたいという呂太夫の挑戦もまた、作品に一層の熱を吹き込むことでしょう。



# おすすめ公演 Pick Up

紀尾井 明日への扉 —— 今年度前半の「紀尾井 明日への扉」公演に出演する2名の出演者からメッセージが届きました。

## 第24回 ディアナ・ティシチェンコ (ヴァイオリン)

7/25 木

19:00開演  
販売中

今回、私の大好きな曲目を詰め込んだ特別なプログラムを演奏します。前半は、ラヴェルとエネスク第3番のソナタ。ラヴェルのこのソナタ



ディアナ・ティシチェンコ

を特に際立たせているのは、ジャズやブルースといった要素を取り入れているところで、第2楽章にその特徴が聴き取れます。エネスクのソナタはルーマニアの民俗的なモチーフと舞踊のリズムで彩られています。演奏機会が少なくあまり知られていないため、今回聴いていただくことができ嬉しいです。後半は、印象主義的な色彩に富むシマノフスキの「神話」、そして、ガラツと雰囲気を変えて最後に演奏するのが、プロコフィエフの傑作、ソナタ第1番。第二次世界大戦中に書かれたこの作品は、悲しみや憂鬱さが全体を支配していますが、私にとってとても大切に愛着の深い作品です。(5月の初来日中に紀尾井ホールを見学して)その内観の美しさに驚きました。響きも間違いなく素晴らしいことでしょう。弾くのが本当に楽しみです。また7月に戻ってきて、皆さまにお目にかかれるのを楽しみにしています。



動画でメッセージをご覧になりたい方はこちら▶

## 第25回 本堂 誠 (サクソフォン)

9/12 木

19:00開演  
販売中

この度は「紀尾井 明日への扉」シリーズに出演させていただけること、大変嬉しく思っております。今も昔も、世界の中心となってクラシカル・サクソフォン界の発展をリードし続けてきたのはフランスでした。サクソフォンのルーツ、そしてパリ音楽院で5年間学んだ私自身の音楽のルーツ、それをソプラノ・サクソフォンからバリトン・サクソフォンまで幅広く利用して、存分に表現したいと思います。フォーレ、ドビュッシー、ラヴェルに加え、現代のフランス音楽を牽引するマントヴァーニやアタール、そして現在フランスで活動している日本人若手作曲家の坂田直樹氏の作品などを取り上げます。また、羽石道代さんとは初めて共演させていただいて以来11年になりますが、私の音楽を表現する上で欠かせない、信頼する素晴らしいピアニストです。



本堂 誠

©井村重人

皆さまのご来場、お待ちしております！

## 紀尾井 午後の音楽会 旅 世は情け — 行逢ば兄弟 —

10/17 木

13:30開演  
小ホール

友の会優先発売 7/2 〇  
一般発売 7/4 〇

沖縄古典音楽 歌・三線奏者の仲村逸夫さんとフルートの高木綾子さんによる旅へご案内!「ハンガリー農民組曲」を作曲したバルトークは、音楽院を卒業した直後から後輩コダーイとともに各地の民謡や民族音楽を収集し、その方面の研究に大きな足跡を残しました。この作品もハンガリーの方々に収集した民謡を素材としており、原曲の民謡はすべて明らかになっています。そして、共演曲「浜千鳥節」は、旅先の宿で昔の苦勞を思い出しながら、海を隔てても同じ月を眺めているだろうかと故郷の親に想いを馳せる沖縄民謡で、沖縄では良く親しまれています。今回は三線、箏、笛とフルート、ピアノと、出演者全員でお届けします。



仲村逸夫



高木綾子

©FUMI

## クアルテットの饗宴2019 ドーリック弦楽四重奏団

10/31 木

19:00開演  
販売中

2008年に大阪国際室内楽コンクールで優勝し、一躍脚光を浴びたドーリック弦楽四重奏団。日本に縁のある彼らは、



いまや欧米における室内楽界の牽引役として活躍しています。紀尾井ホール初登場となる今回のプログラムも充実の極み。アルバムでも多くの反響を呼び、高い評価を得た彼らのライフワーク、ハイドンの弦楽四重奏作品から、快活で小気味良く、作曲家の遊び心も加わった第38番「冗談」。彼らの母国・イギリスが誇る作曲家ブリテンが晩年に到達した枯淡な境地を彷彿させる弦楽四重奏曲第3番。そして楽聖ベートーヴェンの魂が凝縮された後期弦楽四重奏曲の中から第13番と、この作品の本来の終楽章として作られた「大フーガ」も共に演奏し、弦楽四重奏の魅力をたっぷりとお聴きいただけます。

# 邦楽名曲 解体新書

第二回

## 清元 お祭

### 山王祭を題材に 江戸の粋を凝縮

『お祭』は神田祭と並び江戸の二大祭といわれる日枝神社の「山王祭」を題材にした清元の曲です。一八〇〇年代前半に成立した清元は、これまでの浄瑠璃や常磐津にはない高い音域を使っていることが斬新とされ、当時の人々に非常に受けられました。

山王祭の行列の先頭は猿と鶏の山車なので、山王祭のことを俗に「申酉の祭」ともいきました。そのため歌い出しも「申酉の花も盛り」となっています。祭りの日、鳶頭はほろ酔い気分。大山詣りの帰り道に仲良くなった芸者さんから惚れられたというのろけ話をします。そのあと当時流行していた字余りの都々逸や、木遣り、拳遊び、物尽くしなどが盛り込まれ、江戸の粋な世界が二〇分弱の中にギュッと凝縮されています。

歌舞伎や日本舞踊で演じられる時は、客席から「待ってました！」と大向うからの掛け声を受けて鳶頭が「待っていたとはありがてえ」と返し、「じたい去年の山帰り」と続く場面が有名

### 私のおすすめ この一曲

お話 清元志寿雄太夫さん

本名題「再茲歌舞伎花轢」  
歌舞伎舞踊曲。清元  
文政九年（一八二六）初演  
作詞者 二代目桜田治助  
作曲者 初代清元齋兵衛

### 高音域で華やか 清元らしさを堪能

私が『お祭』に出合ったのは二十歳そこそこの時。祖父・清元志寿太夫が自宅で毎朝、この曲で発声練習をしていたんです。私を含めて二、三人の弟子と一緒に「初の二座の連れの内」という部分を繰り返し声出していました。この部分が好きだったんですよ。

曲の聴きどころとしては、まずは清元の特徴である高音域を感じていただきたいですね。名人とうたわれた祖父は4オクターヴの音域が出たといわれています。高い声を出すために心がけていることは演奏家によってさまざまですが、私の場合は毎日コンスタントに発声すること。歌舞伎の公演ともなると二か月近く毎日続くわけですから、相当な体力を使います。発声そのものが健康維持につながっていると思いますね。



【あらずし】日枝神社の「山王祭」の行列に金棒曳きとして加わる鳶頭。ほろ酔い加減で自慢話やのろけ話をし、威勢の良い遊びを滑稽交じりで陽気に繰り広げる。歌舞伎や舞踊では「待ってました！」と大向うからの掛け声を受けて「待っていたとはありがてえ」と返すところも見どころの一つ。

我々清元の演奏家にとっては、この『お祭』はめでたい席や華やかな席によく合う曲として好まれています。二〇分間というちょうど良い時間で、パッと場を明るくする。同じ祝いの曲でも格式のあるお座敷で演奏される『青海波』などは違い、軽妙な感じがします。

十七代目中村勘三郎さんが得意とする曲でもありました。ほろ酔い気分で千鳥足。踊りであつて踊りでない。でも喧嘩で絡まれた時はサツと機敏にあしらう。そういう粋な動きでした。ね。大病をなさった時も、復帰公演でこの曲を選ばれました。お客様にとってはまさに「待ってました！」です。その後すっかりお元気になられて。十五代目片岡仁左衛門さんがまだ「片岡孝夫」と名乗られていたころも、大病をされて、その復帰公演に『お祭』を選ばれました。演奏する方も踊る方も元気が出て、テンションが上がる曲です。

歌詞の内容そのものは、難しいことは何も言っていません。祭りの賑やかな情景が目には浮かび、邦楽に初めて触れる方にも楽しんでいただけると思います。江戸の祭礼を歌った清元の曲には、他にも『神田祭』や『三社祭』があります。いずれも賑やかで華やかな、江戸の粋が詰まった曲ですので、機会があればぜひ聴いていただきたいと思います。



◆ 清元志寿雄太夫（きよもとしずおだゆう）◆

昭和33年東京都生まれ。同48年初代清元志寿太夫に入門。同年初舞台。同60年より清元青鳳会に参加。歌舞伎公演、国内外の演奏会等で活躍。

文・イラスト/尾花知美  
(月刊『江戸楽』編集部)



# ハープとスペイン

をめぐる3つのお話 文・松本學



King David playing the harp, with Angels dancing and playing music. (Unknown, 17th century)

ハープは笛と並んで歴史の古い楽器です。ギリシャ神話にもたびたび登場し、特に動物から木々や岩までも魅了したオルペウスの竖琴は星座にもなりました。ハープの前身のひとつにキタラがあります。今ではキタラといえばギターを意味します。ギターといえばスペイン。連想ゲームのように今回はハープとスペインとの関係をめぐる3つのお話です。

## 1 ハープの起源と発達

狩りに用いる弓から生まれたともいわれるハープ。弦を爪弾く楽器”としては、遡ること遙か紀元前4000年頃に早くもその存在が認められます。古代ギリシャの時代にはリラやキタラと呼ばれ、神話の中でアポロンやヘルメスが、聖書の中ではダヴィデ王も嗜んでおり、その姿はレンブラントやルーベンスの絵画にも描かれました。楽器の形状はさまざまでしたが、徐々に弦の数を増やし、全音階に並べただけのものから、

その横に半音階の弦を併置した2列弦のハープなど、さまざまなスタイルを経て発展、表現能力を高めてきました。現在のダブル・アクション・ペダルの形になったのは19世紀前半の頃。その後19世紀末にはエラール社が2列の弦を交互させて並べたクロマティック・ハープを開発し、ドビュッシーがこの楽器のために《神聖な舞曲と世俗的な舞曲》を書いたりもしましたが、あいにく半世紀ほどで廃れてしまいました。

## 2 ハープとスペインのかかわり

スペインではハープはかつて特別な地位にありました。セビリアやグラナダで16世紀前半に出された法令では弦楽器製作者はチェンバロやリュートとともにハープの製作が義務付けられていましたし、17世紀初期までは教会をはじめ広く一般に用いられており、当時多くの貴族も演奏していたそうです。

15〜16世紀にはアラゴン王国の国王フェルナンド2世に仕え、その妻であるカステイリヤ王国の女王イサベル1世にハープを教えたというルドルフィコというハープストがおり、彼の歴史的遺産を保存研究する協会が現在も活動しています。そこが主催する国際ハープコンクールも1989〜2009年にかけて3年ごとに開催されていました。

20世紀にはルイサ・メナルゲスやニコノール・サバレタ、マリサ・ロブレスという歴史的名手も活躍。ロドリゴはサバレタのために《アランフェス協奏曲》をハープ用に編曲、ロブレスには彼女の結婚祝いにセビリア幻想曲《ヒラルダの調べ》を贈っています。

## 3 ハープとスペイン舞踊

スペインらしい古典的舞踊(バイレ)といえ、ホタやボレロ、それにフラメンコなどが有名です。内戦後、初代首相のフランコがローカリズムを禁止したために地方舞踊は衰退を余儀なくされてしまいました。だが、それでも独特な味わいはまだ強く残っています(余談ですが、逆にバレンシアの「一地方料理に過ぎなかつたパエリジャ」を「スペイン国民料理」として担ぎ上げ国家運営に利用したのもフランコです)。

強いハープとではキャラクターが異なりますが、たとえばパラグアイのハーピスト、ニコラス・カバジェロの弾くパコ・デルシア作品などは、楽器のサイズはともかく、速弾きの興奮を存分に味わえます。ハープは優雅なだけではな表現力多様な楽器なのです。

10月公演ではフラメンコの名匠とクラシックのハーピストがスペイン色の濃厚なクラシック音楽で共演します。パリージョ(フラメンコ・カスターネット)の歯切れのよい乾いたサウンド、特にルセロ・テナ十八番のカレティージャ(連続打ち)と、ハープの色彩豊かな世界の融合からは、スペイン・テイストとハープの古くからの親密な関係が偲ばれるでしょう。

10月公演ではフラメンコの名匠とクラシックのハーピストがスペイン色の濃厚なクラシック音楽で共演します。パリージョ(フラメンコ・カスターネット)の歯切れのよい乾いたサウンド、特にルセロ・テナ十八番のカレティージャ(連続打ち)と、ハープの色彩豊かな世界の融合からは、スペイン・テイストとハープの古くからの親密な関係が偲ばれるでしょう。

ハープとスペインをめぐる紀尾井ホール公演

10/8(火)

19:00開演

フランス・ハープ界の貴公子と  
スペインの国宝的存在との奇跡のデュオ

グザヴィエ・ドゥ・メストレ (ハープ)  
& ルセロ・テナ (カスターネット)

販売中

〔曲目〕

アルベニス: ピアノ・ソナタ 二長調 Op.13

グリーディ: 古いソルチコ

アルベニス:

12の性格的な小品集Op.92より 第12曲「朱色の塔」  
スペイン組曲第1集 Op.47より 第1番「グラナダ」  
スペイン組曲第2集 Op.97より 第2番「サラゴサ」  
スペイン組曲第1集 Op.47より 第5番「アストゥリアス」

ソレル: ハープ・ソナタ 二長調

グラナドス: 詩的なワルツ集

スペイン舞曲集 Op.37より 第5番「アンダルーサ」

タレガ: アルハンブラの思い出

ファリャ/グランジャーニ編:

歌劇《はかなき人生》より スペイン舞曲第1番



# フォトレポート

最近の公演から

3.15  
Quartet Plus  
ウェールズ弦楽四重奏団+  
佐々木 亮&横坂 源&池松 宏

アンケートより  
「メタモルフォーゼ、  
というテーマの下、  
それぞれの特徴を  
活かした演奏が素  
晴らしかった。」



4.5  
4.6  
紀尾井ホール室内管弦楽団  
第116回定期演奏会  
ホーネックのモーツァルト選集Ⅲ

名手揃いの管楽器メンバー。  
演奏機会も希少な  
「グラ・パルティータ」圧巻でした。



4.15  
ヴィルデ・フラング  
ヴァイオリン・  
リサイタル



▲演奏後、チャームिंगな  
笑顔も見せてくれました。  
ピアノ、リフィッツ氏と。



▲各方面から大絶賛の  
紀尾井ホールデビューとなりました。

4.18  
紀尾井 午後の音楽会  
旅 - 起点 -



▲何度モリハーサルを重ねて熱のごもった共演になりました。  
「壽獅子」で江戸の賑わいから旅が始まりました。

3.6  
3.7  
紀尾井邦楽ドラマ  
松廼家おけい  
虚空遍歴(山本周五郎)より

朗読と端唄の融合、  
だんだんと中藤沖也の  
世界へ引き込まれます。



3.21  
ピエール=ロラン・エマール  
ピアノ・リサイタル  
ヴァリエーションズ!

アンケートより  
すばらしかった。ゴル  
トベルクは人の  
一生のように感じ  
ずと余韻を感じ  
ています。



## 紀尾井ホールにご支援いただいている企業および個人の方々です

- 紀尾井サポートシステム会員 (五十音順・「株式会社」等表記及び敬称略) 2019年6月1日現在
- 特別協賛 日鉄ソリューションズ/三菱商事
  - みやび会員 伊藤忠商事/大島造船所/KDDI/菅原/住友商事/丸紅/三井住友銀行/三井物産/三井不動産/三菱商事/三菱地所/メタルワン ほかほか名2社
  - ひびき会員 オカムラ/さらぼし銀行/竹中工務店/山下設計
  - みどり会員 青鬼運送/赤坂維新館/赤坂 エクセルホテル東京/今治造船/ヴァートル/エーケーティ/A.ラング&ゾーネ/NSシンフォニーオーケストラ/原冷熱システム/鹿島建設/リカピタルホテル 東京/三協/清水建設/上智大学/スライムウェイジャパン/西武プロパティーズ/大成建設/高砂熱学工業/千代田商事/テスト・ライフ/東芝ライテック/永田音響設計/日活アド・エイジェンシー/日本ハム/ニュー・オータニ/ハウス食品グループ本社/パナソニック/富士ゼロックス/松尾楽器商会/三井住友信託銀行/三菱電機ビルテクノサービス/三菱UFJ銀行/三菱UFJ信託銀行/三菱UFJモルガン・スタンレー証券/ミュージョン/明治座舞台/ヤマフ/ヤマハサウンドシステム/有帆
  - あおい会員 青木陽介/石崎智代/磯部治生/井上善雄/片山能輔/栗山信子/近藤貴子/佐久間庸行/佐部いく子/志立正朝/清水多美子/清水康子/鈴木 亮/高下謙吾/高橋義徳/外山雄三/中島博/中西達郎/西村利美/馬場弘之/原田清朗/北條哲也/堀川将史/牧本恵美子/松枝 力/松本美恵/養輪永世/陸田 実/村上喜代次/村田正仁/持留宗一郎/八木一夫/八木晶子
- ほかほか名22名 計95口

- 特別支援会員 (社名五十音順・「株式会社」等表記略)
- アステック入江/五十鈴/NSユナイテッド海運/NSユナイテッド内航海運/エヌエスエス  
/エヌテック/大阪製鐵/丸鋼工業/草野産業/黒崎播磨/合同製鐵  
/小松シヤリング/山丸/産業振興/三晃金属工業/サンウ/三洋海運/ジオスター/  
日鉄ケミカル&マテリアル/日鉄ソリューションズ/新日本電工/スガテック/大同特殊鋼  
/天和製鐵/高砂鐵工/高田工業所/鶴見鋼管/DNPモリス/テック/東海鋼工業  
/東邦シートフレイム/トピー工業/日亜鋼業/日鉄SGワイヤ/日鉄環境/日鉄建材/  
日鉄鋼管/日鉄鋳業/日鉄鋼線/日鉄鋼板/日鉄興和不動産/日鉄テックエネジ/  
日鉄ドラム/日鉄日新製鋼/日鉄物産/日鉄物流/日鉄物流岩津/日鉄物流八幡/  
日鉄保安サービス/日鉄オルテン/日鉄溶接工業/日本金属/日本触媒/日本鋼板/  
清田重工/富士鉄鋼センター/不動産トラ/幕張テクノガーデン/松菱金属工業/三晃光産  
/宮崎精鋼/吉川工業
- 日本製鉄 (2018年度 匿名一社除く)



友の会会員になって、  
イベントに参加しよう!

## 第32回 紀尾井友の会イベント

# 「彌勒忠史 恋の季節・初秋のアモーレ!」



彌勒忠史



高本一郎

カウンターテナーの彌勒忠史みろくただしプロデュース・脚本・演出で、2020年3月に開催予定の音楽絵巻「アモーレとブシケ」公演。この公演の見どころ・聴きどころを、彌勒忠史自身が音楽とトークでご紹介する楽しいイベントです。アモーレはヴィーナスの息子で、キュービッドとも呼ばれる愛の神ですが、人間の美女・ブシケに恋をします。ギリシャ・ローマ時代から現代まで、人々を惹きつけてやまないアモーレ。アモーレにまつわる歌をカウンターテナーの彌勒忠史が高本一郎のリュートに乗せて歌います。

- 日程 2019年8月24日(土) 14:30開演
- 場所 紀尾井小ホール
- 出演 彌勒忠史(カウンターテナー)、高本一郎(リュート)
- 曲目(予定) カッチーニ「アモーレよ なにをグズグズしているのだ」  
カッチーニ「翼を持つおまえ アモーレよ」 ほか
- 料金 お一人様 チケット1,500円
- 発売 6月28日(金) 10:00~
- お申込み 紀尾井ホールチケットセンター 及び ウェブチケット 同時発売。  
友の会会員は同伴者1名(計2名)までお申込み可能。

※詳細は、ちらしをご覧ください。

## 「トゥールダルジャン 東京」 で味わう 究極のスペシャル ランチ

開業35周年を迎えるホテルニューオータニ内のレストラン「トゥールダルジャン 東京」との初コラボが実現! この日限りの、スペシャルメニューをご用意いたしました! 公演前のひと時を豪華ランチでお楽しみください。(20名様限定)

〈ランチプラン〉  
チケット代金+お食事 15,000円  
(税+サ込)

## TOUR D'ARGENT



紀尾井友の会  
特典施設の  
ご紹介

NEW



## hanadouraku 麹町本店 花どうらく

“特別な記念日はもちろん、日常の中にも花を取り入れ、日々をより豊かに楽しんでいただきたい”それが私たちの願いです。ショッピングやスクール、プライダルのプロデュース、オンラインでオーダーできるフラワーギフトなどを通じて、花のある暮らしの豊かさをお伝えしています。ちょっとしたアイデアで、花の魅力はより際立ちます。そこから生まれる心の潤いや、人と人とのつながりを大切に、それぞれの生活に合う花ライフを提案しています。

紀尾井友の会  
会員さま限定特典

お誕生日月にお買い物をされた  
会員さまに、1,500円相当の  
ブーケをプレゼント。



JR四ツ谷駅 麹町口徒歩2分

営業時間

月・水・木・金:10時~19時  
火:10時~18時  
土:10時~17時(日曜、祝日定休日)

お問合せ

TEL.03-5275-3987  
<https://www.hanadouraku.com/>

## 紀尾井友の会のご案内

友の会に入会すると嬉しい特典盛りだくさん! ぜひご入会ください。

- ♪ 財団主催公演チケット 優先発売・割引
- ♪ 「紀尾井 明日への扉」公演などへご招待
- ♪ 会員さま限定イベント開催
- ♪ ホール周辺ホテル・レストラン等の利用特典

年会費  
3,000円  
(入会費不要)

紀尾井ホールウェブチケット

お電話 お申込み・資料のご請求・お問合せ  
紀尾井友の会事務局 TEL.03-5276-4540 (10:00~17:00/土・日・祝休)

※詳しいご案内は紀尾井ホールホームページでもご覧いただけます。

## 編集部だより

●表紙から 赤坂見附の弁慶橋にある釣り堀は隠れた人気スポットで、休日には親子連れで楽しむ姿も見かけます。戦後はボート場としても開放され、長らく市民に親しまれています。今では高層ビルや高速道路がすぐ上を通る大都会。その中でのおんびりと釣りやボートを楽しむのも乙ですね。○撮影場所 弁慶橋

●編集後記 元号が変わり、新しい時代が始まりました。音楽界もさらに盛り上がっていくといいですね。さて前号から新たに始まった連載「邦楽名曲解体新書」。今回は清元「お祭」について清元志寿雄太夫さんにお話をうかがいました。赤坂山王日枝神社で毎年6月に行われる「山王祭」の様子語りられる曲で、とても華やかな曲です。祭りの様子や人々の活気がありありと描かれていて、聴いていて楽しい気持ちになりますよ。現在はYouTubeなどで検索すると簡単に視聴できるので、ぜひ聴いてみてください。(E)

公式SNSで  
最新情報  
配信中♪



Facebook

主催公演の様相やバックステージの様子など、旬の話題を配信中!  
<https://www.facebook.com/kioihall/>



Twitter

主催公演の最新情報を配信中!  
いち早く紀尾井ホールの情報をお届けしています。  
[https://twitter.com/kioi\\_pr](https://twitter.com/kioi_pr)



紀尾井ホール室内管弦楽団 Facebook

楽団の活動情報をいち早くお届け。  
リハーサルの様子やオフショットなども公開しています。  
<https://www.facebook.com/KCO.Tokyo/>



YouTubeチャンネル

出演者インタビューや演奏風景など随時配信中。  
ここでしか見られないアーティストの横顔が見られるかも?!  
<https://www.youtube.com/user/KioiHall>

チケットのお申込み

紀尾井ホールウェブチケット <http://www.kioi-hall.or.jp>

紀尾井ホールチケットセンター TEL.03-3237-0061 10:00~18:00(日・祝休)  
(夏期休業: 2019年8月11日(日・祝)~15日(木))

